

第107回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成25年3月1日(金) 10:56～11:34

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議員	菅 義偉	内閣官房長官
同	山本 一太	科学技術政策担当大臣
同	新藤 義孝	総務大臣
同	麻生 太郎	財務大臣
同	下村 博文	文部科学大臣
同	茂木 敏充	経済産業大臣
議員	久間 和生	常勤
同	原山 優子	常勤
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
同	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社取締役副会長
同	中鉢 良治	ソニー株式会社取締役代表執行役副会長
同	橋本 和仁	東京大学大学院工学系研究科教授兼先端科学技術研究センター教授
同	平野 俊夫	大阪大学総長
臨時議員	甘利 明	経済再生担当大臣 兼 内閣府特命担当大臣(経済財政政策)
同	稲田 朋美	内閣府特命担当大臣(規制改革)

(議題)

1. 開会

2. 議事

(1) 総合科学技術会議の今後の進め方

(2) 成長戦略に資する事例紹介（ロボットスーツ（HAL））

3. 配布資料

資料1－1 総合科学技術会議議員名簿

資料1－2 総合科学技術会議運営規則

資料2 科学技術イノベーション政策の現状と課題について（山本大臣提出資料）

資料3 総合科学技術会議の今後の検討課題について（有識者議員提出資料）

資料4 世界初医療ロボットによる未来開拓（山海教授プレゼン資料）

参考資料1 平成25年度科学技術関係予算（案）の概要について

参考資料2 平成25年度科学技術関係予算（案）におけるアクションプラン・重点施策パッケージについて

参考資料3 科学技術イノベーション政策の現状と課題について（参考資料）（山本大臣提出資料）

参考資料4 「科学技術イノベーション促進の為の仕組みの改革について－イノベーション創出環境の革新－」（科学技術イノベーション政策推進専門調査会 平成24年12月）

参考資料5 第105回総合科学技術会議議事録（案）

4. 会議概要

(1) 総合科学技術会議の今後の進め方

資料2に基づき、山本科学技術政策担当大臣から説明がなされた。

資料3に基づき、中鉢議員から説明がなされた。

具体的な内容は以下のとおり。

【山本科学技術政策担当大臣】

資料2の科学技術イノベーションに期待される役割と我が国の現況について御説明をしたい。

科学技術イノベーションは、経済成長の原動力、活力の源泉であり、社会のあり方を大きく変える力を持っている。

戦後の我が国を顧みても、急速な経済成長を牽引するとともに、石油危機等、数々の危機克服の為のブレイクスルーを用意し、時にピンチをチャンスに転換させた鍵こそが科学技術イノベーションであった。しかしながら、近年では科学技術イノベーション面で国際競争力が低下

し、我が国産業の存在感が薄れているとの懸念が高まっている。

２ページ以降の図表では、我が国産業が世界シェアを失いつつあることや科学研究の分野でも地位が低下していることなどが示されている。

４ページを御覧下さい。こうした中で、科学技術イノベーション政策に今日期待される役割はますます増大している。

人口減少やグローバル経済競争、エネルギー環境制約等、我が国を取り巻く経済環境が中長期的に厳しさを増す中で、足下でも長引くデフレと円高で、我が国経済の体力が減退し、社会全体が疲弊しており、このままでは我が国経済社会全体が失速してしまいかねない、異例の緊急事態に陥っている。

この難局を打開する上で、経済政策はこの国の現在の形を左右することは出来るが、この国の未来の形を決める鍵は、科学技術イノベーションである。そうした科学技術イノベーションの重要性を踏まえ、海外諸国では既にイノベーションを国家戦略に位置付けて重点的に取り組んでおり、世界は今や知の大競争時代に入っている。

翻って我が国の政策について見ると、現在、総合科学技術会議のもと、第４期科学技術基本計画に基づき、各省庁が施策を実施しているが、課題や問題点も少なからず指摘されていることから、ここで科学技術イノベーション全体、政策全体を再点検し、見直しを進めたい。

具体的には、３つの視点から検討する必要がある。

第１に政策の推進体制の問題として、総合科学技術会議の司令塔機能のあり方の再点検、第２に国民の目線で見た再点検、第３には学界、産業界の現場の目線で見た再点検である。

このうち１点目の総合科学技術会議の司令塔機能については、安倍総理も昨日の施政方針演説で、世界で最もイノベーションに適した国をつくり上げる決意を示され、その司令塔が総合科学技術会議であると明言されている。

そして、その司令塔機能について、省庁縦割り打破を図る為、権限、予算両面において、これまでにない強力な推進力を発揮出来るよう、抜本的な強化策を具体化するように、総理から私に既に御指示を頂いており、この方針に沿って、政策の推進体制について構築すべく、この会議の場で議論してまいりたい。

更なる具体的な議論は、この後有識者議員から提出資料に基づいて提案があるので、そちらに譲ることとしたい。

それでは、総合科学技術会議の今後の検討課題について、有識者議員の提言を中鉢議員より御説明頂く。

【中鉢議員】

現政権になって、また本日新たに任命されたメンバーも加わって開催される最初の本会議である。資料３を用いて、皆様と問題意識を共有させて頂く。

我が国の経済社会は、異例の緊急事態に直面しているが、この難局を打破し、国際競争に打ち勝つ上で、科学技術イノベーションが果たす役割に対して、多くの期待が集まっていることは、山本大臣の御発言の通りである。

オバマ大統領の一般教書演説では、マニュファクチャリングという言葉に何度も触れ、強い経済の構築、雇用創出への意欲を示し、日本から雇用を取り戻しつつあるとも言っている。また、隣国の朴（パク）槿恵（クネ）大統領は就任演説で、科学技術、ＩＴによる経済復興、創造経済を述べている。そして、昨日の総理の施政方針演説では、成長戦略の根幹にイノベーションを据えていくことを力強く述べられた。科学技術イノベーションに携わる者として、大変に心強く思うと同時に、改めて課せられた役割に身の引き締まる思いである。

こうした中、昨日まではフルメンバーではなかったが、我々有識者議員は山本大臣に多くの時間をとって頂き、科学技術イノベーション政策のあり方を議論してきた。そして、産学政、各々の立場を超え、今年が経済再生元年であり、科学技術イノベーションが持つ潜在力をフルに発揮させることで、危機を払拭するとの認識で一致致した。

２ページ目の「２．科学技術イノベーション政策のあり方」には、科学技術イノベーション政策を推進するに当たって必要となる６つの原則を取りまとめている。

ここで特に強調したいことは、総合科学技術会議がイニシアティブを発揮し、政策を川上から川下まで一気通貫でマネジメントし、経済成長に繋げることである。

「３．本年前半に取り組むべき項目」には、これら６つの原則を踏まえ、本年半ばまでに総合科学技術会議が集中的に審議すべき事項を３点挙げている。

先程御発言のあった山本大臣の３つの視点をもとに、１つ目は科学技術イノベーション政策の長期ビジョンを見直し、その実現に向けた短期実行プランを取りまとめるべきである。

２つ目は、日本経済再生本部への提言を通して、科学技術イノベーションの観点から、成長戦略の策定に貢献すべきと考える。

３つ目は、総理が強い意欲を表明されているように、総合科学技術会議の司令塔機能発揮の為の科学技術イノベーション政策の推進体制の抜本的強化策について、検討すべきと思う。ともあれようやく有識者議員のメンバーが揃ったばかりであって、時間的制約もあり、新しい議

員の意見が十分反映されているとは言えないが、資料３をたたき台として、更に検討を重ねていくべきと考える。

議題（１）に関する各議員からの発言は以下のとおり。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、御自由に御意見を頂く。御発言は要点を簡潔におまとめ頂きたい。

【橋本議員】

これまで私は研究現場で、現場の情報や意見がなかなか政府の中枢に伝わらないことに対して、ジレンマを非常に感じていたが、今回こういう立場を頂いたので、是非現場の情報をお届けし、また政府の御意向を現場に繋げる、そういう役割をしたい。

安倍総理に、お忙しい中、本日この会議に御出席頂いたことを、大変有難いと思っている。我々科学技術に携わる者にとって、総理がこの会議の重要性を非常に認識して下さっていることは、力強いことである。

私は、産業競争力会議の議員も拝命していて、そちらの会議でも既に、安倍総理、そして甘利大臣の非常に強いご意向を受けて、山本大臣の指揮のもと、科学技術イノベーション政策についての色々な議論が進められている。

総合科学技術会議においては、資料３の３ページ目にあるように、科学技術イノベーション総合戦略について長期的なビジョンを持つことが重要である。その一方で、今は短期的なアクションが求められているという状況もあり、それに対しての議論の必要もある。

「（２）成長戦略策定への参画」では、政府のターゲティングポリシーということで、４つの目標が挙げられている。この中身を産業競争力会議でも議論していくと思うが、科学技術に対して、我々はエキスパートなので、総合科学技術会議においてもしっかり政策を検討し、産業競争力会議に提案していくべきであると考え。同時に、産業競争力会議からも政策提案を頂き、この会議で議論する、というようなことも重要である。私は２つの会議の連携を図るという役割を仰せつかっているので、その役を一生懸命務めさせて頂く。是非議員の皆様方とともに、大枠の議論に加えこの中身の議論もして、その結果を産業競争力会議に繋げていきたい。

さらに、産業競争力会議で総理は繰り返し、総合科学技術会議の司令塔機能の強化について発言されている。これは我々にとって千載一遇のチャンスであるとともに、大変重い使命だと

感じている。この辺も是非総合科学技術会議において議論を進めていきたい。私は2つの会議の繋ぎとして力を尽くしたいと思う。

最後に、総理にお礼を申し上げながらのお願いで申し訳ないが、今後も是非この会議に御出席頂きたい。これまでの会議は、総理に出席して頂けることが少なかったと聞いている。しかし、総理にご出席頂くことによって、総合科学技術会議の立場が大きく変わっている。我々も一生懸命務めさせて頂く。

【平野議員】

総理が科学技術イノベーションを重要視されることは、大変素晴らしいことである。

豊潤な果実を得る為には、種をまいて、苗木を育てる。幹がすくすく育って、根が地面にしっかりと張る。葉が茂り、果実が実る。そして種が出来る。これはどれ一つ欠けてもだめである。

これがうまく循環すること、そしてもっと大事なことは、それぞれのバランスが大事だということである。幾ら幹が太くても、葉が茂っても、根が貧弱なら木は立ち枯れる。さらに肥料、小さな木には小さな木に、大きな木には大きな木に相應しい、肥料が必要。また種を多くまけばまくほど果実は多く収穫する事が出来る。

基礎研究や人材育成というのは、種、或いは根である。応用研究や開発研究というのは、幹や葉である。果実の一部は当然種に使わなければ未来はない。だから、結局これらのバランスを如何にとるべきか、どのような割合で限られた財源を配分するべきか、国力にふさわしい科学技術予算規模は幾らか、社会保障や公共投資とのバランスはどうとるべきか、未来の為に種をどれだけまくか。

司令塔機能というのは、本来これらの案件を高いレベルで行なう事です。即ち森全体を見ることだと思う。その上で個々の木、個々の具体的な方策を立案し、実行する必要がある。

最後に一言、「人材育成なくして、真のイノベーションは無い」。要素技術がいくらあっても人材がないと、真のイノベーションは起こらない。私が最も強調したいところである。

【原山議員】

先程総理から辞令を頂きまして、今日はフレッシュマンではなくてフレッシュウーマンの立場で話させて頂く。

我々に与えられたミッションというのは、総理のリーダーシップのもとに、イノベーション政策、戦略をデザインすること、またそれを実施する為の仕掛け作りをすることだと心得てい

る。

その為には、総合科学技術会議そのものがどうあるべきかという話になる。司令塔の話もあるが、3点挙げさせて頂く。

1つは、自らがイノベーターであることが要求される。過去のしきたりにとらわれることなく、新しい仕掛けをどんどん提言していく、新しい仕事の流儀をつくるというのが一つだと思う。

それから、インスパイアリングであることだと思う。それは何かというと、あそこに行くと新しいアイデアがある。あそこに行くと発想の転換が出来る。あそこに行きたいというものにしていきたい。

最後になんですが、とはいいつつもプラグマティックでなくてはいけない。実装可能であって、オペレーショナルなものである。まず、実効性が高いものを提言していくということが3点目である。これを心にしてフル回転したい。

最後ですが、私自身昨年OECDから帰った。その時なぜ帰ったかということ、東北地方の復興ということに何らかの形で役に立ちたいと思ったからである。それに関しても、ここでの議論も相乗効果があるように持っていきたい。

【久間議員】

総理の施策である産業競争力強化による経済再生と経済成長、これが最も重要と思います。総合科学技術会議の議員全員が認識すべきことは、産業競争力を強くして経済を強くする、それによって財務体制を強化する、国民生活を豊かにする、そして次の成長に向けたイノベーションへ創出のための投資を行う。この好循環をつくるには、イノベーションが非常に大切なことを総合科学技術会議の全議員が先ず認識したいと思う。

具体的には、総合科学技術会議のやるべきことは、先ずある一定枠の予算を頂いて、これを活用して課題解決に向けた世界トップを目指した骨太の府省連携プロジェクトを設定することが重要である。例えば再生可能エネルギー、洋上風力発電ネットワーク、介護、医療、産業、原子力などのロボット、再生医療、こういった将来の日本の飛躍的成長に重要なテーマを、総合科学技術会議が府省連携の司令塔としてやっていくということが一つ。

それから、色々なところでイノベーション政策は議論されているが、それぞれのテーマを見ると全て正しい。だが、問題はそれぞれのテーマがどういった産業に育つか、どの程度の規模の産業になるか、どの程度の雇用を創出するか、こういった議論がなされずにテーマがライン

ナップされている。

従って、二つ目は、各府省から提案されたテーマに対して優先順位をつけて、重要度の高いテーマに多くのリソースを配分する、こういったことが総合科学技術会議の役目であると思う。

以上、これから具体的なテーマと、府省連携をどうやっていくか、そういったところをしっかりとやっていきたい。

【内山田議員】

新任議員の内山田です。日々産業界に身を置いていて、国際競争の中で、科学技術のイノベーションがないと競争にも勝てないと思う。

我が国全体で見ても、日本は資源が非常に乏しい国であるので、産業立国、これを続けていく為には、科学技術イノベーションが不可欠。優先順位が高いものは産官学の力を合わせて重要テーマとして、先程御説明があったように、一気通貫で取り組むというのが極めて重要であると思う。

一方で、10年後、20年後の日本のことを考えると、非常に上流のところでは、科学者にある程度自由に色々な方面の研究をしてもらって、それを皆で評価しながら、次の重点分野に繋げていくというような両にらみのことを将来の日本の為にやらなくてはいけないのではないかと考えている。

【青木議員】

折角総理、また経済再生担当大臣、規制改革担当大臣が出席されているので、あえて一言言わせて頂きたい。少子高齢化とか、再生医療とか、そういうのは日本だけが直面している問題ではなくて、世界の他の国も直面している問題であるが、日本は、それらの先進国である。それで、少子高齢化に対する新しい制度とか、再生医療の安全性基準は、これから世界が作っていかねばいけないルールで、未知の世界へ向う最先端を日本がいく必要がある。

同時に、山本大臣の資料にある「不合理なボトルネック」が出来るというのは、新しい環境の為に起こってくるのは当然であって、新しい社会と経済をこれから開拓していくために、規制改革も含めて、日本が制度やルールづくりでリードしていくチャンスではないかと思う。

【下村文部科学大臣】

総合科学技術会議が今後科学技術政策の司令塔として再活性化されることを期待したい。

その際、経済・財政、規制改革、安保・外交等の総合戦略として科学技術イノベーション政策を位置付け、官邸のリーダーシップを発揮する為の司令塔として運営していくことが重要である。

与党においても、司令塔機能強化の具体策が検討されており、これを踏まえつつ、政治主導で取り組むべき重要課題について、総合科学技術会議が各省の制度や政策を強力に誘導していくことに期待を申し上げる。

文部科学省としては、総合科学技術会議が策定する戦略に基づき、研究開発施策の実施官庁として、我が国の競争力強化の為に取り組んでまいりたい。

【甘利経済再生担当大臣】

本年半ばを目途に取りまとめる成長戦略において、科学技術イノベーションの強化が規制改革と並ぶ最重要課題である。この為に、産業競争力会議とこの総科とがしっかりと連携することが必要であり、山本大臣が産業競争力会議に常に出席をする議員として出て頂いているとともに、橋本議員に両会議の議員として議論の橋渡しということをお願いしているところである。

総合科学技術会議には、次の２点をお願いさせたい。

１点目だが、産業競争力会議では、健康長寿、エネルギー、次世代インフラなどの分野において、戦略市場創造プランを策定する。

具体的には、将来のあるべき姿を戦略目標として設定をして、それに到達する為の道筋を見極めて、必要な技術及び産業や市場を特定するということである。

この産業・市場の創造の為に、研究開発投資から規制改革に至る一貫通貫の施策を集中投入をする、所謂ロードマップを提示する。これらの戦略における国家的な重要研究開発課題について、産業競争力会議とこの総合科学技術会議との連携によって、その具体化を進めたい。

２点目。総合科学技術会議の司令塔機能の抜本強化については、産業競争力会議でも活発な議論がなされている。総合科学技術会議のもとで重点的な府省横断プロジェクトの予算策定から、配分、執行までを一元的に行うべきであると、或いは府省横断的に基礎から応用までを切れ目ない研究開発マネジメントが確立出来る体制を構築すべきであると、こうした指摘を民間議員から受けておる訳である。

このような議論を踏まえて、総合科学技術会議の機能強化の具体案について、産業競争力会議と連携をして、検討を是非進めて頂きたい。以上２点お願いさせて頂く。

【稲田規制改革担当大臣】

安倍内閣の成長戦略における規制改革は、その一丁目一番地であり、とりわけ科学技術イノベーションに係る規制改革は、重要な課題と認識している。科学技術におけるイノベーションを実現し、新たな財・サービスの実用化やビジネスモデルの構築を促すことは、我が国の競争力を強化し、持続的な発展を図る上で不可欠である。

その際、障害となる規制が存在する場合には、規制改革会議が連携して解決に当たることも考えている。大胆かつ迅速に改革を実現出来るよう、頑張っていく。

【山本科学技術政策担当大臣】

今日は総理も息をのむような日程の中で、かなり無理をして時間を取って頂いた。

総理の時間も限られているから、少しせわしい運営になってしまった。

今後、本会議を月一、二回程度開かせて頂き、本格的に審議を進めてまいりたいので、是非また総理の御出席をお願いしながら進めていきたいと思う。

それでは、次の議題に移らせて頂く。

ここからはプレスが入る。

(プレス入室)

(2) 世界初医療ロボットによる未来開拓(山海教授プレゼン資料)

資料4に基づき、山海教授から説明がなされた。

具体的な内容は以下のとおり。

【山本科学技術政策担当大臣】

本日は成長戦略に資する事例紹介ということで、筑波大学の山海教授に、高齢者、障害者の自立に直接役立つロボット技術の実用化の取り組みについて、紹介して頂く。

【山海教授】

本日はどうも有り難うございます。懐かしい先生方もいらっしゃる恐縮している。

私は、この自民党政権の際に、色々基礎開発研究のところで御支援頂いた成果が、今こういうふうに出てきたということをお話しさせて頂く。

今やろうとしていることは、我が国が直面する課題、例えば高齢化といった問題に対して、それを解決する手法そのものや産業を興すための新しい革新技术として育てること。そして新産業創出をすること。またそれを回すことによって、その開拓型の人材をどんどん育成していくということ。この3つの柱を中心にチャレンジをしてきた。

今、世界初のメイドインジャパンのロボット医療機器は世界に発信出来るような段階に入っている。それをやる為には、様々な規制や、臨床試験も含めて、必ずそういった世界に通用する制度を育成するフィールドが重要となってくる。しかし、これはこの国には実は殆どない状態であり、残念なことに、海外にそういったものを頼る状況がしばらく続いていた。

この原理だが、人が体を動かそうとすると、脳から体を動かささいという信号が出てくるが、そういう信号を使いながら、ロボットが意思で動いてくれるという、こういう不気味な装置が出来上がっている。

これは世界初の技術で、世界の特許の中でも、例えば国内では最高の特許に選んで頂いている。今実演しているが、自分が体を動かさなくても、自分の意思でロボットが動いてくれる。運動とか、脳神経系に障害があったり、また誰でも高齢化に伴って、例えば脳神経系の疾患に必ずなったりするもので、私も含めてここにいる皆様も、3割、4割なっていく訳だが、そういう方の場合に、脳からの信号さえとれば、これを使って脳神経系と末梢系をロボットの技術で繋ぎながら機能改善をしていくということが出来る訳である。

またこちらにあるロボットのように、遠隔で使えるようなことも出来る、そういった技術もつくってきた。

これを見て頂くといいのだが、今世界の中で、医療機器については、法律に全ての国が組み込まれているので、こういうISO13485という医療機器をつくってもよいという、この規制を持っておかなければいけない。この許可を持っておかなければならない。

各国における認証取得数だが、2008年では、ドイツ、アメリカがここにある。そして、日本は9位にいて、日本は薬も医療機器も全て海外から買わざるを得ない状況に今おかれている。

おもしろいことは、ここに中国がいる。中国が2004年の段階で24しか国内に医療機器を作れる会社が無かったのが、わずか何年間かの間に1,100、そして1,500までいっている。

それがこれは法律に組み込まれるから、世界中チェックがあつて、とうとうこれが2011年、最新の情報・データでは、3分の2が取り消しになっている。しかし、必ずこういった国は、物づくりについてのパラダイムシフトをしていく。

つまり高品質で安いものを作る時代から、もっと高品質であることが法的に要求されて、更

にそれが高い利益を生み出すもの、そういったものが世界の中で舵取りをされて動いていて、ドイツ、アメリカはこの3年間に更に1,000社ずつ伸ばしているという、そういう状況である。

私達も、こういう技術をただの技術にせず、一つの産業にしていく為のチャレンジとして国際認証ということで、ロボット医療機器としては世界で初めてこういったものをつくれる、そういう規格をきっちりと通過させる。更に、先日は福祉でも使えるような規格についても、世界で初めて許認可を受けた。

ここに幾つか成果があるが、脳卒中の患者さんも2回脳卒中を起こした方が歩けたり、50年ぶりで体を動かせたりするようになった例である。或いは医薬品とロボットの組み合わせとか、再生医療とロボットの組み合わせといった、新しい、これまで無かったような医療を提案することが出来る。

こちらにはドイツ予算でとうとうHALを使う為のセンターが出来てしまって、これはとても残念である。分野を広げるという意味ではいいのだが、とうとうドイツの予算、またはスウェーデンの予算でも、こういったものを臨床的に進めていくということになっている。

とにかく競争力のある新産業創出と、こういった最先端のロボット医療機器を世界展開しながら、社会実装拠点というものを準備することが、世界からこういうテクノロジーと人を集めてくる非常に重要なものになると考えている。

さて、今日はこのロボットを持ってきたので、総理にこちらで見て頂きたいと思う。このロボットは、今、担当者の彼と繋いでいる。彼が手を動かすとロボットが動く。これでもし彼が手を動かさない状態、つまり体が動けないような状態だとしても、ロボットが助けてくれるということになってくる。

今回、私共が開発してきたものは、これくらいの軽さになって、総理も持って頂ければと思うが、こんな感じの重さに、大分軽くなってきた。これをいずれは服にまで組み込んで、人間の身体機能をきちんと改善していけるような、もっとより健康度の高い生活、つまり寝たきりにならない支援をするようなものに仕上げていきたい。

こちらに色々なロボットがあるが、こういった技術を横展開すると、災害対応ということで、例えばこのロボットは60キロのものを背負ってでも大丈夫なプロテクションジャケットを装着している。放射線の被ばくやケミカル物質、バイオ系のものも防御する。背中の最先端のクーリングシステムで冷却をしながら作業が出来るという、そういうものにまでこの基礎技術が広がってきている。以上でございます。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、最後に安倍総理から御発言を頂く。

【安倍内閣総理大臣】

昨日、施政方針演説を行って、その施政方針演説で私達は再び世界一を目指す、と申し上げたが、世界一を目指す為には何と言ってもイノベーションである。安倍政権として、新しい方針として、イノベーションを重視していく。そのことをはっきりと示していきたい。

その意味においては、総合科学技術会議を極めて重視をしており、本来、総合科学技術会議は経済財政諮問会議と同じように、最も重要な2つの会議の一つである。

御承知のように第一次安倍政権においても、イノベーションを重視して、そしてオープンな姿勢によって、日本経済を力強く成長させていく方針を打ち出し、そしてこの会議において、「イノベーション25」を策定して頂いた。残念ながら、その後、民主党政権下においては、この会議も活発に開催されることがなかった。イノベーションを推進していく為にも、科学技術においても、このイノベーションにあたっている人達に勇気を与えていく為にも、政治の上においても、これは極めて重要だというメッセージを出していく必要があると思う。

今後、なぜ日本のイノベーションは停滞してしまったのか、また或いは「イノベーション25」で何が出来て、何が足りなかったのかを徹底して検証し、その上で、「世界で最もイノベーションに適した国」を創り上げていきたい。その司令塔こそが総合科学技術会議であり、新たに生まれ変わった新生総合科学技術会議とすべく私も全力で頑張っていきたい。皆様とともに汗を流していきたい。

先程もお話を頂いたが、イノベーションに対して、国家的な支援を投入していくことは、新たな富を生んでいくことにも繋がっていく訳でもあり、そして、そうなのだということを国民の皆様にも理解をして頂く、国民の皆様とコミュニケーションをしていくということも、とても大切なのではないのか、と思う。

本会議では、有識者議員から御提案のあった次の3点を、本年半ばまでに集中的に審議し、結果をまとめて頂きたい。

第1に、科学技術イノベーション政策の全体像を示す長期ビジョンや短期の行動プログラムを含む「科学技術イノベーション総合戦略」を策定して頂きたい。

第2に、日本経済再生本部と連携して、成長戦略に盛り込むべき政策を、科学技術イノベーションの観点から検討して頂きたい。

第3に、総合科学技術会議の司令塔機能について、権限、予算両面でこれまでにない強力な推進力を発揮出来るよう、抜本的な強化策を具体化すべく検討して頂きたい。

先程山海先生のロボットスーツ（HAL）を間近で拝見させて頂き、メイド・イン・ジャパンの力とイノベーションによって、富を生み出すだけではなく、まさに人間が健康を取り戻す、そして豊かな人生を取り戻すことにも繋がっていく、と思った次第である。

その意味においても、これからこの第一回を契機として、これによって日本の科学技術政策は変わった、日本のイノベーションは変わった、と思われるような会議にして頂きたい。

（プレス退室）

【山本科学技術政策担当大臣】

なお、参考資料1から5については、机上のとおり配付させて頂いている。

第105回の議事録と本日の資料は公表する。

以上で会議を終了する。